

レンコン年内掘り優良系統「パワー」及び「ひたちたから」の最適栽植密度

[要約]

レンコン年内掘り優良系統「パワー」及び「ひたちたから」の最適栽植密度は、「パワー」が 250 本/10a、「ひたちたから」が 350 本/10a である。

茨城県農業総合センター園芸研究所	令和2年度	成果 区分	技術情報
------------------	-------	----------	------

1. 背景・ねらい

レンコン優良系統選抜試験において、品質に優れる優良 4 系統を選抜した。優良選抜系統の普及には、系統の特性を把握し、その特性を活用した安定生産技術の確立が望まれる。そこで、今回は、年内掘り向け優良選抜 2 系統の安定生産技術を確立するため、最適な栽植密度を検討する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 可販収量が安定して高い栽植密度は、「パワー」で 250 本/10a、「ひたちたから」では 350 本/10a であり、圃場条件による差は認められない(表 1、図 1)。
- 2) 親バス及び子バス生産本数の合計が最も多い栽植密度は、「パワー」が 250 本/10a、「ひたちたから」では 350 本/10a である。(図 2)。
- 3) 栽植密度と規格別割合には、両系統とも一定の関係は認められない(図 3)。
※パワーはデータ省略

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本研究で供試した種バスの芽数は平成 30 年では、「パワー」が 4 芽、「ひたちたから」が 5 芽で、令和元年では両系統とも 5 芽、令和 2 年は両系統とも 4 芽である。
- 2) 本試験は枠内小規模試験のため、実際栽培より収量が高くなる傾向がある。

4. 具体的データ

表 1 現地試験圃における土壌条件¹⁾

試験地	供試系統			全窒素 (乾土%)	全炭素 (乾土%)	腐植含量	CEC (meq/100g乾土)	土質 ²⁾
	H30	R1	R2					
土浦市	パワー	パワー	ひたちたから	0.21	3.1	5.3	20.7	腐植質グライ黒ボク土
かすみがうら市	ひたちたから	ひたちたから	パワー	0.17	2.0	3.5	13.2	砂壤質グライ低地土

1) 平成30年植付前の土壌診断結果

2) e-土壌図Ⅱ(農研機構 農業環境変動研究センター)より

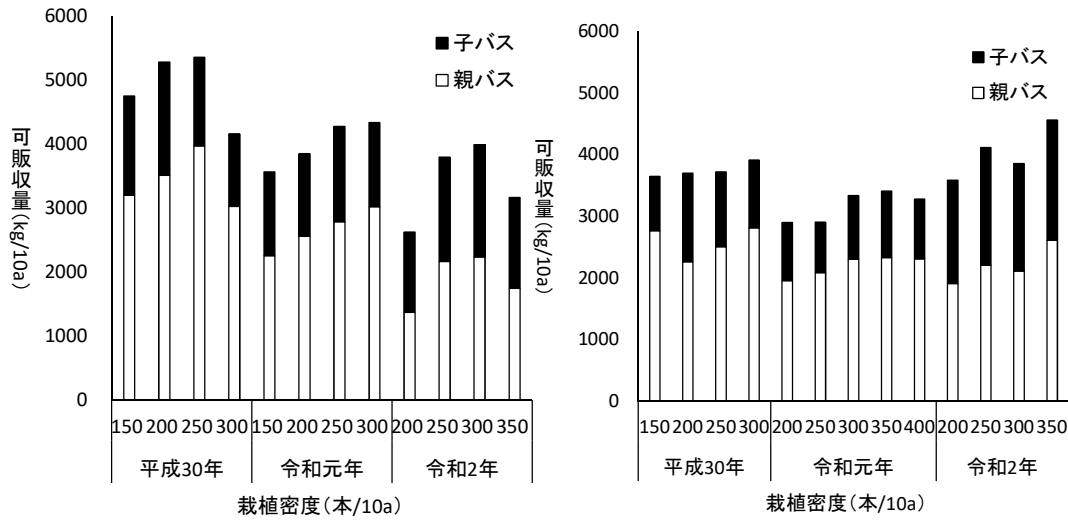


図 1 栽植密度が可販収量に及ぼす影響(左:「パワー」、右:「ひたちたから」)

定植:【平成30年】パワー4/13、ひたちたから4/10【令和元年】パワー4/2、ひたちたから4/5【令和2年】パワー4/14、ひたちたから3/25
 収穫:【平成30年】パワー9/26~10/3、ひたちたから10/6【令和元年】パワー9/24~25、ひたちたから10/1
 【令和2年】パワー10/6、ひたちたから9/29~10/1
 施肥量:【平成30年】パワーN:P:K=30:16:40(kg/10a)、ひたちたからN:P:K=24:12.8:32(kg/10a)
 【令和元年】パワーN:P:K=30:16:40(kg/10a)、ひたちたからN:P:K=25.3:17.2:35.5(kg/10a)
 【令和2年】パワーN:P:K=24:16.7:37.2(kg/10a)、ひたちたからN:P:K=30:16:40(kg/10a)
 試験規模:1区11.4~15㎡ 2反復

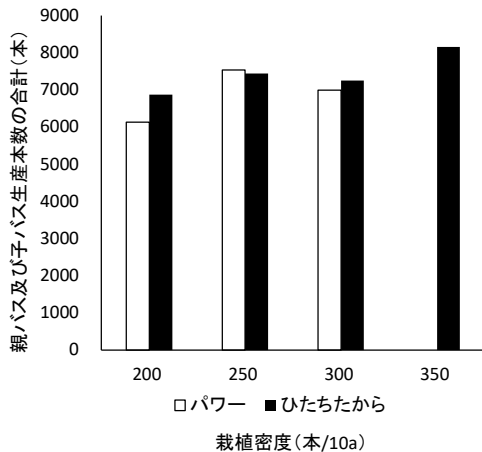


図 2 栽植密度が親バス及び子バス生産本数に及ぼす影響
 ※H30~R2 試験の平均値

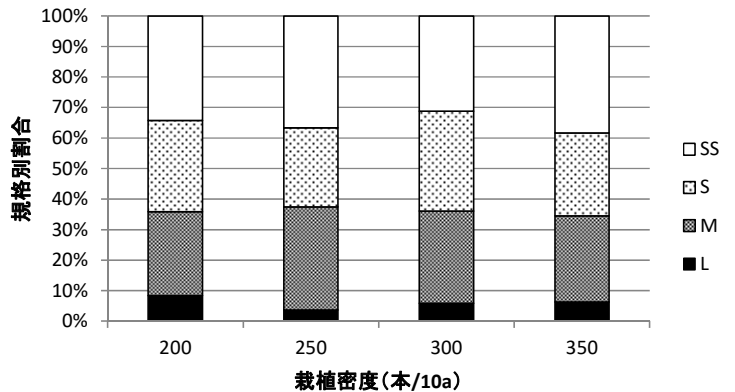


図 3 栽植密度が規格別割合に及ぼす影響(ひたちたから)
 ※H30~R2 試験の平均値
 階級基準
 L:1400g以上 M:400g~1400g,S:200g~400g,SS:70g~200g

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

本県産レンコンブランド力向上のための優良選抜系統の安定生産技術の開発・平成30~令和4年度・野菜研究室